資料２－１

京都における医工連携の取組経過等について

京都バイオシティ構想（平成１４年６月）

産学公連携のもと，本市に集積するバイオテクノロジー分野の先進性，優位性を生かした産業政策，都市政策として策定

（重点３分野）

①医学と工学の融合分野

②環境分野

③地域資源を活用した分野

○「高次生体機能医工系研究センター（仮称）」の誘致（整備）を検討

具体のプロジェクトの検討

医工連携プロジェクト関係者打合せ会（平成１４年４月～１５年８月）

医工連携プロジェクト検討委員会（平成１６年８月）

構成：本庶先生を中心に京大医学部，工学部，地元企業，行政

目的：医学・工学分野の融合による最先端技術の研究開発及び事業化の検討

医工連携プロジェクトの展開

京都市地域結集型共同研究事業

ＪＳＴ地域結集型共同研究事業（平成１７年１月～２１年１２月）

○ 事業終了後には，京都市が中心となり，医工連携の研究開発拠点（地域ＣＯＥ）となる「高次生体機能医工連携センター（仮称）」の整備推進

細胞・生体機能シミュレーションプロジェクト

文部科学省リーディングプロジェクト（平成１５～１９年度）

医工連携プロジェクトをきっかけとした更なる展開

京都大学ナノメディシン融合教育ユニット

文部科学省科学技術振興調整費（平成１７年度～２１年度）

悪性腫瘍等治療支援分子イメージング機器研究開発プロジェクト

ＮＥＤＯ分子イメージング機器研究開発プロジェクト（平成１７年度～２１年度）

京都大学・キヤノン協働研究プロジェクト 高次生体イメージング先端テクノハブ

文部科学省科学技術振興調整費（平成１８年度～２７年度）

地域結集事業終了後を見据えて

門川市長マニフェスト（平成２０年１月）

○京都大学の医工連携の研究成果を中核にして，京都の産学公の知的資産を結集する「京都医工研究センター」を誘致

今後の取組予定

医・工・ライフサイエンス連携プロジェクト検討委員会の開催

（平成２０年度～２１年度）（第１回平成２０年７月３１日開催）

目的：① 京都バイオシティ構想の更なる推進

② 医療を核とした融合分野における新たな連携プロジェクトの検討

③ 「京都医工研究センター」の理念，整備手法等の検討

構成：塩田医学研究科長を中心に，京都大学の医学，薬学，農学，工学，理学，情報学，生命科学，再生医科学研究所の各研究者(24 名)，地元企業(13 社)，行政関係者(2 名),合計 39 名

医学と工学の両分野に関する経験知識を有するコーディネーターと京都市とで運営実務を担う。

医療を核とした融合分野における新たなプロジェクトの具体化

「京都医工研究センター」の在り方について成案